

平成 20 年度日本植物病理学会関西西部会のお知らせ

平成 20 年度関西西部会開催地委員長 吉本 均

平成 20 年度日本植物病理学会関西西部会を和歌山市(和歌山ビッグ愛)で開催いたしますのでご案内申し上げます。多数の皆様のご参加をお待ちしております。なお、本部会では本年度の大会に準じ、講演要旨をメールによりお受けすることいたしました。

・日程と会場(時刻は予定です)

平成 20 年 9 月 18 日(木)	13:00 ~ 14:00	総 会 (1201+1202 会議室)
	14:20 ~ 17:00	一般講演 (602,603,801 会議室)
	18:00 ~ 20:00	懇 親 会 (1201+1202 会議室)
平成 20 年 9 月 19 日(金)	9:30 ~ 12:30	一般講演 (602,603,801 会議室)

開催場所: 和歌山ビッグ愛 〒640-8319 和歌山県和歌山市手平2-1-2

<http://www.wakayamasposhin.or.jp/big-ai.html>

・参加申し込み

同封の郵便振替払込取扱票(口座番号:00930-5-123444, 加入者名:日本植物病理学会関西西部会開催地事務局)に必要事項を記入し、平成 20 年 8 月 1 日(金)までにご送金下さい。振込用紙の通信欄のコピーを、領収書、講演要旨集などの宛先ラベルとして使いますので、送り先、氏名などは正確に記入して下さい。部会参加費(講演要旨集 1 部 2,500 円を含む)は 5,000 円(ただし締め切り日以降は 6,000 円)、懇親会費は一般 6,000 円、学生 3,000 円です。講演要旨集のみ希望の場合は 1 部 2,500 円です。送料は 240 円です。

郵便振替払込取扱票による送金をもって部会参加の申し込みとします。整理の都合上、払込用紙は参加者 1 名ごとに 1 枚をお使い下さい。郵便振替払込取扱票をさらに必要とされる場合は、郵便局に備え付けの用紙を使うか、80 円の郵便切手を貼った返信用封筒を同封して、開催地事務局までご請求下さい。

参加を申し込まれた方には、9 月上旬に講演要旨集および名札をお送りします。この名札は領収書を兼ねますので、部会参加期間中は必ず携行して下さい。なお、参加取り消しによる返金の受付は、8 月 8 日(金)までとさせていただきますのでご了承下さい。

・講演発表の申し込みと講演要旨原稿の作成

講演発表ができるのは日本植物病理学会会員(平成 20 年度会費納入者)で、1 人 1 題のみとします。発表希望者は、以下の例をご参照の上、作成要領に沿って講演要旨原稿を MS Word ファイルで作成し、Eメールの添付ファイルとして、平成 20 年 8 月 1 日(金)17 時まで、関西西部会プログラム担当用アドレス(e0703081@pref.wakayama.lg.jp)あてにご送付下さい。なお、Eメールの題名(subject)は、「要旨」+「:」+「発表者氏名」として下さい。また、添付ファイル名は「発表者氏名.doc」として下さい。原稿が正しく受け付けられた場合には、受け取りのメールを送付者宛てに返送します。受け取りのメールは 1 ~ 3 日で送付しますが、届かない場合は正しく受け付けられていない可能性がありますので再送付して下さい。講演要旨原稿送付をもって発表の申し込みといたします。なお、Eメールによる送付ができない場合は、以下の例に従って作成した MS Word ファイルを CD-R に保存し、平成 20 年 8 月 1 日(金)必着で、郵便にて開催地事務局

あてにお送り下さい。

講演要旨集はA4変形版(学会誌と同じ大きさ)で、1頁に2題の要旨を掲載する予定です。また、講演要旨は、座長などによる審査の後に「日本植物病理学会報」に掲載されます。

・講演発表

講演は討論時間を含めて12分程度を予定していますが、演題数によって変更することがあります。平成20年度部会では、発表は「Power Point 2003」による発表とします。発表用ファイルは、前もって必ずWindows版「Power Point 2003」で正常に表示されることをご確認ください。「Power Point 2007」は使用できません。特殊なフォントやアニメーション等の機能は使わないで下さい。後部座席からでも判読できるように小さい文字や細かい図表は避けて作成してください。また、重いファイルはパソコンの動作に不具合をきたすことがありますので、できるだけ軽いファイルにしてください。ファイル名は「会場番号 - 講演番号 - 発表者苗字」とし、「1-234-Okuda」のように半角で表記してください。提出するCD-Rの表面には油性マジックで講演番号と発表者氏名をご記入ください。パソコンの操作は会場係が行います。

・宿泊と交通

関西部会開催地事務局では特別に宿泊・交通の斡旋はいたしませんので、各自で手配をお願いします。なお、和歌山駅周辺にある宿泊施設は限られているため混雑が予想されます。早めにご予約下さい。

最寄り駅から総会会場までの交通

徒歩: JR和歌山駅から約20分

: JR宮前駅から徒歩約12分(遊歩道有り)

バス: JR和歌山駅か約5分 番線のりば 新手平經由海南藤白浜行き又はマリーナシティ、又は医大病院行き(鳴滝団地行きを除く)『北出島』停留所下車すぐ



・関西部会開催地事務局

平成20年度関西部会の参加申し込み、お問い合わせなどは、関西部会開催地事務局(増田吉彦)へお願いします。講演発表の申し込みはプログラム担当(島津康, 吉本均)までお願いいたします。

平成20年度日本植物病理学会関西部会開催地事務局

住所 〒643-0022 和歌山県有田郡有田川町奥 751-1

和歌山県農林水産総合技術センター 果樹試験場内

TEL (代) 0737-52-4320 (直) 0737-52-8717(増田吉彦) FAX 0737-53-2037

Eメール e0703021@pref.wakayama.lg.jp

関西部会プログラム担当

うめ研究所内 TEL 0739-74-3780 (島津康, 吉本均) FAX 0739-74-3790

Eメール e0703081@pref.wakayama.lg.jp (講演要旨送付用)

講演要旨原稿作成要領

- <全体の大きさ> 和文講演者氏名から所属略称までが縦 73mm，横 161mm の枠に収まるようにする．1つのファイルには1つの講演要旨原稿を収めること．
- <ページ設定> 用紙サイズ：A4 用紙，縦方向．余白：上 15mm，下 30mm，左 25mm，右 25mm．
文字数と行数：「文字数と行数を指定する」を選択し，文字数を 50，字送りを 9pt，行数を 51，
行送りを 14pt にする．
- <配置> 両端揃え（所属略称のみ右端揃え）
- <フォント> 全てのフォントサイズを 9pt とする．日本語用フォント：平成明朝または MS 明朝（ただし和文題目のみ平成角ゴシックまたは MS ゴシック）．英数字用フォント：Times New Roman．
英数字は全て半角とする．句読点は「，」，「．」とする．題目，本文中とも，学名などイタリックにする必要があるものはイタリックとする．
- <和文講演者氏名>（1行）講演者が複数の場合は中点「・」で区切り，発表者名の前に丸印「○」をつける．所属が異なる場合には，「*」，「**」で区別する．
- <和文題目>（2行以内）フォントは平成角ゴシックまたは MS ゴシックとする．
- <英文講演者名と英文題目>（2行以内）：氏名は，family name, first name initial, middle name initial の順に書き，initial の間にはスペースを空けない．講演者名と英文題目の間は，コロン（：）で区切る．
- <本文> 9行以内で記載する．
- <所属略称>（1行）括弧「（ ）」に入れ，右端揃えとする．複数の場合は中点「・」で区切り，和文講演者氏名に対応させ，「*」，「**」をつける．

講演要旨原稿の後に以下の情報を記入する．

- <発表希望分野> 「糸状菌病」，「細菌病」，「ウイルス病」，「植物保護」の中から1つ選ぶ．
- <発表内容> 「分類・同定・診断」，「発生生態」，「感染生理」，「防除」の中から1つ選ぶ．
- <対象植物> 和名（カタカナ）または学名で示す．
- <対象微生物> 和名または学名で示す．
- <原稿送付者の氏名>
- <原稿送付者のEメールアドレス>
- <発表者の学会会員番号> 会員番号は，封筒の宛名シールに記載されています．平成 20 年度会費未納の方は，至急会費をお支払い下さい．

講演要旨原稿の例

(実際の大きさです。点線枠は要旨集に掲載される範囲を示すもので、印字の必要はありません。)

森本涼子・菅野英二*・足立嘉彦**・中村 仁***

Ellisembia sp.によるモモ果実赤点病（新称）

Morimoto, R., Kanno, E., Adachi, Y. and Nakamura, H.: Fruit Red Spot of Peach (*Prunus persica*) caused by *Ellisembia* sp.

2003年7月に和歌山県紀の川市において、モモの果実表面に赤色の小斑点を生じる障害が発生し、斑点部からは暗緑色～黒色菌叢を示す糸状菌が高率に分離された。分生子の接種により、自然発症果実と同じ症状が再現され、接種菌と同一の菌が再分離された。福島県で発生した同様の障害果からの分離菌株を含めて、モモ枝煎汁加用オートミール寒天培地上での形態を観察したところ、分生子柄は暗褐色、真直～やや屈曲、隔壁を有し、頂部に出芽型分生子を単生、分生子は褐色、結節部のある倒棍棒状で、3～4個の偽隔壁を有し、不明瞭ながら先端部に付属物が存在するなど *Ellisembia* 属の特徴が認められた。rDNAのITS領域の塩基配列は和歌山県、福島県の両分離菌株でほぼ一致し、これら配列の相同性検索を行った結果、*E. asterinum* との相同性が約90%と最も高い値を示した。以上より、和歌山県および福島県からの分離菌を *Ellisembia* sp.と同日し、本菌によるモモの病害はこれまでに報告がないことから、本病をモモ果実赤点病（英名：Fruit Red Spot）と命名することを提案する。

（和歌山農総技セ果樹試かき・もも研・*福島農総セ果研・**東北農研・***果樹研）

糸状菌病

分類・同定・診断

モモ

Ellisembia sp.

森本涼子

xxxxx@xxx.xxx-u.ac.jp

123456

